

## 第 101 回 ITER 機構職員募集説明会での Q&A

### 1. 日時・場所

平成 29 年 11 月 6 日（月）～9 日（木）

リンクステーションホール青森（第 18 回核融合炉材料国際会議（ICFRM-18））

### 2. 来訪者 50 名程度

### 3. 説明概要

第 18 回核融合炉材料国際会議（ICFRM-18）において、ITER 計画に関するポスター、ITER 模型、パンフレット、チラシを展示し、ITER 計画の概要と最新の建設状況、ITER 国内機関として ITER 製作機器の製作状況と製作機器の調達活動と、ITER 機構職員数の現状、ITER 機構職員公募に関して説明を行った。

（ITER 計画管理グループ 齋藤 ITER 連携推進グループ 上野、會澤、古田）

### 4. 主な Q&A

Q：機器製作のビデオは見られますか？

A：機器製作ではありませんが、ITER サイトの建設状況や ITER 主要機器の組立動画が QST 核融合エネルギー研究開発部門 ITER 計画のサイト内にあるビデオライブラリー（[http://www.fusion.qst.go.jp/ITER/iter/page1\\_22.html](http://www.fusion.qst.go.jp/ITER/iter/page1_22.html)）でご覧いただけます。

Q：ITER 機構職員に年金制度はありますか？

A：社会保障制度の一つとして、年金基金制度があります。年金基金とは、雇用期間中に職員給与から積立てておき個人の退職金口座に一括又は終身年金を受け取れるようにするものです。職員は 4 種類の年金プランと 2 種類の通貨（ユーロ、ドル）から貯蓄型運用型と選ぶことができます。

Q：このような展示で PR していることは何ですか？

A：ITER 計画は、現在の環境問題、エネルギー問題を根本的に解決できる可能性のある核融合エネルギーを科学的・技術的に成立することを実証するための超大型国際プロジェクトですが、日本国内での認知度がまだまだ低いと言えます。また、ITER 計画を知っている方でも、現在の ITER サイトの建設状況や機器製作の進捗に関しての新しい情報が届いていないことが多いので、この機会に皆様に、そういった進捗情報をお伝えするため、ブースを設けて PR をさせていただいております。さらに、ITER 機構で働く日本人職員数が 20 名程度とまだまだ少ないため、現在も ITER 機構から随時募集されている ITER 機構職員募集に関して説明させていただいております。

Q：ITER サイトの建設状況、ITER 計画の進捗はどのようになっていますか？

A：ITER は、2025 年に最初のプラズマを着火することを目指して建設が進んでいます。現時点で完成しているのは、ポロイダル磁場 (PF) コイル建屋、クライオスタット組立棟と本部ビルです。トカマク組立建屋については 2016 年に外装工事が完了し、また内装工事についてもほぼ完了し、TF コイルと真空容器を組み合わせる装置を据え付けるための基礎工事が進められています。トカマク複合建屋についても建設作業が進み、地下レベルが見えなくなりました。トカマク生体遮蔽では L3 レベルのコンクリ

ート打設の準備が進められ、また計測建屋のコンクリート外壁は L2 レベルまで進んでいます。一方、各参加 7 極では ITER 協定の合意に従って機器の製作が進んでいます。例えば日本では、今年度（2017 年度）に中心ソレノイド（CS）コイル用導体の製作が完了しました。また、トロイダル磁場（TF）コイル実機 1 号機の巻線および構造物の製作が進んでいます。構造物については TF コイル実機 1 号機用インボード側コイルケースの製作が完了し、アウトボード側コイルケースを製作している現代重工（韓国）に出荷されました（2017 年 9 月）。他にも、イーター中性粒子入射加熱装置実機試験施設（NBTF）用電源の製作が完了し、最終輸送便がイタリアに向けて出荷されました（2017 年 8 月）。

毎月最新の ITER 建設サイトの状況につきましては QST 核融合エネルギー研究開発部門 ITER 計画のサイト (<http://www.fusion.qst.go.jp/ITER/index.html>) にて紹介しておりますので、ご覧ください。

## 5. 展示会の様子

